

高橋和「風跡」2012 混合技法・ハチ土蔵 190.0 × 113.5cm 2012 (平成24)年

萬鉄五郎記念美術館企画展覧会

高橋和 〈たかし・かず〉 展

[会期] 2025年 3月8日 [土] — 4月20日 [日]

[開館時間] 午前8時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで) [休館日] 月曜日 (月曜が祝日の場合はその翌日に休館)

[入館料] 一般400(350)円 / 高校・学生250(200)円 / 小学・中学生150(100)円 * ()内は20名以上の団体料金

[主催/会場] 萬鉄五郎記念美術館 及び 八丁土蔵ギャラリー 〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5区135番地 / TEL.0198-42-4402 FAX.0198-42-4405
<https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1019887/yorozutetsugoro/1002101.html>

萬鉄五郎記念美術館

高橋和展

盛岡市に生まれた高橋和(たかはし・かず 1935-)は、盛岡第二高等学校卒業後、盛岡短期大学美術工芸科油絵科に学び、画家の深澤省三・紅子夫妻らに師事。在学中の1955(昭和30)年から女流画家協会展へ出品しはじめ、プールプー賞、甲斐賞、小川孝子賞など受賞を重ねてきました。1991(平成3)年には委員推挙となり、同協会展や個展を中心に今日まで発表を続けています。

高橋の作品は、人物や街を繊細な感性で捉えた具体的な描写を皮切りに、スペインやペルー、メキシコなどの取材旅行を経て、異国の街並みを鋭角的フォルムで切り取った構成的な作風へと向います。やがて、形体と色彩の単純化が進むとともに、動的な筆触による「風」が立ち現われ、時間の流れと空間が混在するような茫漠とした画面の《風跡》へと結実します。同シリーズは、彼女が生涯に亘って取り組む代表作となり、近年は油彩のほか、柿渋や墨、ジェッソを用いた混合技法により、その表現をますます深化させています。

本展では、高橋和の初期作品からはじまり、《風跡》シリーズの最新作へと至る各期の作品を一挙に紹介し、彼女の画業と表現の変遷を辿ります。

〈関連事業〉

高橋和 講演会

「作家生活 70 年を振り返る」

日時 / 2025年3月23日(日) 14:00~

会場 / 萬鉄五郎記念美術館

講師 / 高橋和

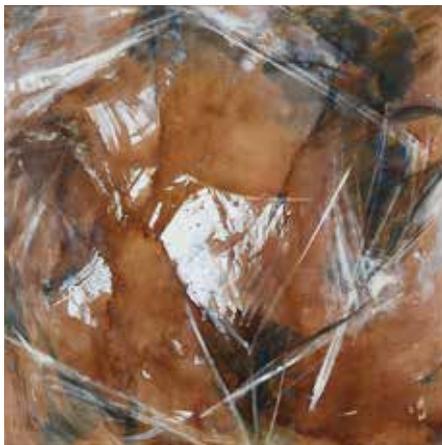
参加をご希望の方は、当日直接美術館までお越しください。



高橋和《風跡 2021-1》
油彩・画布 162.0 × 162.0cm
2021(令和3)年



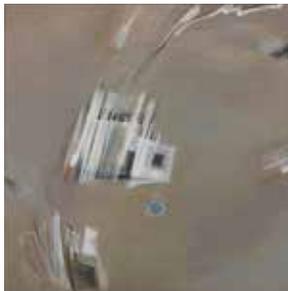
高橋和《風跡 06-5》
混合技法・画布 213.0 × 113.0cm
2006(平成18)年



高橋和《08-II 跡》
混合技法・画布 162.0 × 162.0cm
2008(平成20)年



高橋和《風跡 04-II》
油彩・画布 162.0 × 162.0cm
2004(平成16)年



高橋和《風跡》
油彩・画布 162.0 × 162.0cm
1999(平成11)年



高橋和《SILENCIO》
油彩・画布 162.0 × 162.0cm
1996(平成8)年



高橋和《遠い街》
油彩・画布 162.0 × 162.0cm
1992(平成4)年



高橋和《インティ・ライミ》
油彩・画布 60.6 × 50.0cm
1988(昭和63)年



高橋和《裸婦》
油彩・画布 130.3 × 130.3cm
1978(昭和53)年頃



高橋和《さんじん》
油彩・画布 91.0 × 116.7cm
1957(昭和32)年